

働きすぎ黒書 ニュース

全日本教職員組合（全教）生権局

2007年3月23日

東京都千代田区二番町 12-1 3F

自分にむちうって・・・

京都・小学校栄養教諭

京都では今年度から栄養教諭への移行が始まり、私も栄養教諭になった。しかし、そのことで急に忙しくなった訳ではない。栄養教諭の職務は、文科省も「食に関する指導と学校給食の管理を一体のものとする」としているように、栄養職員でも行って来た仕事の延長線上にある。

今、子ども達は食生活の大きな変化の中で、心と体に多くの課題を抱えている。学校給食を通して、子ども達がしっかりと「食」と向き合い「食べる喜び・食べる力」を育てて欲しいと仕事に取り組んできたが、仕事量は年々増える。午前中は調理員と打ち合わせをし、調理作業をすることもある。給食時間直前には、その日の給食作りの様子や、味わい方を便りに書き、各クラスに届ける。子ども達を書く感想には、返事を書き次の日には返す。給食時間はランチルームの指導に合わせ、各クラス学期に1回ずつ食に関する授業を行う。授業後は、ワークプリントに目を通し一言添える。午後からは月曜の料理クラブ、木曜日の職員会議や校内研修、金曜日は他校への兼務。統一献立・一括購入に関わる出張も多く、週に1回多いときには2回になる。

6時、7時まで仕事をする人が増えてきている。勤務時間が終わっても仕事は山積み。少しでも減らしておかないと明日が大変と思うと2～3時間の超勤は日常的。それでも帰りには、仕事を持ち帰る。先日行った『栄養教諭アンケート』にも「今まで通りとはいえ、栄養教諭として社会的に認められる仕事をしなければと思い、自分にムチをうっています。」という思いも寄せられ、食育ブームや栄養教諭への移行の中で、自分自身を追い込んでしまう不安が大きくなっている。